

I C D P の特徴と独自性

I C D P 研究会理事 建部哲也

I C D P（国際子ども発達プログラム）はもともと心に深い傷を負った子どもたちを救うために作られ、第3世界の国々で大きな成果をあげたが、そうした子どもたちにとどまらず、幼児、青少年、高齢者など、何らかの意味で心理社会的なケアを必要とするすべての人たちに対して有効である。

それは、親や教師や施設のスタッフ、すなわちそれらの人々をケアするケアギバーの質と能力を高めることによって行われる。

このプログラムの特徴は、素朴で教育のない人々でも習得可能な「単純性」と、様々に異なる文化や社会の人たちに対応できる「広く柔軟な適応性」にある。I C D Pはそのために、世界保健機関（WHO）やユニセフから高い評価と支援を受けている。

それはこのプログラムが、最新の心理社会学の業績に基づきながらも、どのような文化、どのような社会の子育て法にも見られ、どのような局面でも姿を現す普遍的なヒューマンケアに基礎をおいていることによる。

ヒューマンケアは、あらゆる文化や社会に普遍的な人間関係の核心であり、誰もが経験している身近なものでありながら、多くの場合、いそがしい日常生活の中に埋没してしまっている。I C D Pプログラムは、そこに基礎をおくことで、異なった文化背景を持つさまざまな社会に無理なく適応し得る。

具体的には、I C D Pはその地域で慣習的に行われている子育て法に含まれているヒューマンケアの側面を発見し、確認し、生き返らせ、さらにそれを拡大し、発展させるためのプログラムである。そのためケアギバーたちは、それまでに自分が身につけてきた知識や経験を失うことなく、自分のケア能力を高め、ケアギバーとしての自信を深めることができる。

I C D Pの方法論の核心は、外から理論を教え込むこと（インストラクション）にはなく、ケアギバーたちの感受性を高めるセンシタイゼーショ

ン (sensitization, 子どものニーズや欲求に対する敏感化) にある。

そのステップは、子どもという存在を定義し直すことから始まる。ケアギバーが子どもをどう見るかは、与えるケアの質に決定的な影響を与える。ICDPは子どもも「人間」として捉える。そして子どもの発声や行動を、感情、体験、願望、イニシアティブ（自発性）の表現であると理解する。

したがって子どものイニシアティブ（自発性）、体験、そして心の状態を観察し、感じ取る能力は最も重要であり、それに敏感になることによって、ケアギバーは子どもの体験に参入することができる。

それに加えて、ケアギバーは、一人ひとりの子どもがどのような特別の性格、人格、動機、能力（良いも悪いも）を持つ「人間」であるかを見極め、その性格と特性に合わせて対応の仕方を変えていく。児童虐待は、その子がケアギバーによってネガティブ（否定的）に定義されていることから生まれる場合が多い。

このように一人ひとりの子どもの欲求、感情、経験を敏感に感じ取り、子どもと共感的に関わることによって、ICDPは良質なケアを与える能力を高めていく。

したがってICDPの核心はセンシタイゼーションにあるが、ICDPはそのトレーニングの内容を、3種類の対話と8つのガイドラインに分類している。3種類の対話とは、

- (A) 共感的-感情表現的な対話
- (B) 意味指向的-理解拡大的な対話
- (C) 規範設定的な対話

であり、それらの対話を、8つのガイドラインに従って実践していく。ICDPは、質問を使い、ロールプレイや、グループ・エクササイズや、自宅での自己観察によって、ケアギバーたちがそれまでの自分のやり方をみ

ずから思い出し、評価し、改善していけるように方向づける。

共感的-感情表現的な対話をかわす際のガイドラインは、

- (1) 面と向かってポジティブな感情を示す。
(あなたはどのようにして子どもに愛情を示しますか?)
- (2) 子どものイニシアティブ(自発性)を受け入れ、応答する。
(子どもがすすんで何かをしようとするとき、あなたはどのようにそれに応えてやりますか?)
- (3) 言語、非言語の両方で、ポジティブで親密な関係を築く。
(あなたは言語と非言語の表現をどのように使い分けて、子どもと親密なコミュニケーションを確立しますか?)
- (4) 子どものすることをほめてやり、認めてやる。
(子どもが努力し、何かを達成したとき、あなたはどのように子どもをほめますか?)

意味指向的-理解拡大的な対話におけるガイドラインは、

- (5) 子どもの注意の焦点となるものを一緒にシェアする。
(あなたはどのようにして、まわりの事物に子どもの注意を向けさせますか?)
- (6) 子どもの体験していることの意味や、まわりの環境との関連を説明してやる。
(あなたはどのように物事について説明し、意味を分かち合いますか?)
- (7) 大人の場合との比較や、物語や、エピソードを使って子どもの体験を広げ、豊かにしてやる。

(あなたはどのようにして、世界についての子どもの理解と経験を豊かにし、広げてやりますか?)

規範設定的な対話でのガイドラインは、

(8 A) 子どもの行動や計画をサポートし、一步一步進んでゆけるように段階的にリードする。

(あなたは子どもの計画にどのように参加しますか? あなたはどのようにして、子どもが活動や計画を立案し、目的に向かって一步一步実行していくことを助けますか?)

(8 B) ポジティブな仕方でも子どものふるまいに制限を設け、許されることと、許されない限界を明確にしてやる。

(あなたはどのようにして、子ども同士の衝突を解決しますか? あなたは子どもが規則や限界や価値を学ぶのを、どのようにして助けますか?)

の計8つである。

ICDPはそのプログラムが、ケアを扱うNGOや、施設や学校で実施され、最終的には地域社会のケアシステムの中に取り込まれることを望んでいる。そのため、地域の大学の協力を仰いで、実施の効果と質を継続的にモニターしてもらうことを方針としている。

ICDPのコースは、ケアギバーの能力を高めるプログラムを実施する資格を持つファシリテーターの養成コースと、その上のトレーナー養成コースの2段階になっている。トレーナーはファシリテーターの業務を指導し、ファシリテーター養成コースを主催することができる。